

社会科における質問学習の効果

足利市立毛野小学校 奈良場 純 一

この記録は、共同質問学習の結果をとりまとめたものです。現代は学習の個別化が研究され、いかにこの効果をあげるべきかが研究推進されている時点、これは一つの特例ケースとし、共同質問学習の結果が比較的多くの効果をあらわしているのを、参考までに紹介します。内容は社会科学学習の資料としても、いくぶん役立つものと存じます。

対象学年

5年生児童の全体、学習教室は講堂。

ねらい

学習単元、「日本の農業」を糸口として、

1. 足利市の農業の現状を理解させる。
2. 足利地方の農作物の生産動向をつかませ、郷土の基本的な特色をとらえさせる。
3. 農業と関連しながら、経済成長と相まって、工業の発展か農地を工業団地や住宅団地に変転していることを知る。

指導者

足利市農業協同組合 農業指導員(参事、理事)

活用資料

足利市役所 開発組合 農業委員会 足利トリコット工業組合 食糧事務所 両毛路農協同組合 栃木県農林統計事務所等

学習活動

- グループ方式により、郷土、足利の農業について児童が理解しようとしている事実を自由に質問させる。
- 教師は質問に対する司会役をつとめ、児童に自由な立場から発問させる。
- 質問範囲は足利地方の農業問題に関する事。

学習時間 60分とした。

以上の方法をもって共同質問学習会を開いた結果、次のような質問事項が児童の中から見られた。ここに記録した質問事項は29項目になっているが、実際には38項目にわたっている。質問学習の内容を精選して、次に紹介する。数字の部分は児童の質問事項です。

1. 足利地方の農業はどの程度に進んでいるか。

種類	区分	台数	摘要
自動耕運機		4,680台	所有戸数 4,880戸
防除機		1,420	" 1,790戸
脱穀機		5,430	" 5,690戸
乾燥機		1,840	" 1,840戸
発動機		1,880	" 1,880戸

2. 足利地方の農業の共同化については、どんなものがあるか。

共同化して行なっている作業には、次のようなものがある。

- ①病害虫の共同防除 ②田植えの共同作業 ③かんがい用水の共同管理 ④青果、畜産物の共同販売 ⑤稚蚕の共同飼育(かいこの一生5令のうち3令まで)。

3. 多角経営とはどんなことか。

農業経営を米麦の収入だけにたよることなく、労力の配分なども考えて青果物や畜産なども行ない、農業収入をふやすことを目的としている。

4. 3ちゃん農業とはどんなことか。

農家の若い人は、他の産業に勤めに出るものが多くなったので大部分の農家では、うちに残っているおかあちゃん、おじいちゃん、おばあちゃんが農業をやるようになったので、農業従事者が婦人化、高齢化したことをいう。

5. 足利地方の農産物にはどんなものがあるか。

主として米・麦・まゆ・いちご・ぶどう・きゅうり・とまと・しいたけ・肉豚・けい卵等がある。このほか野菜類の数は多い。

6. 足利市の農業人口はどのようになっているか。

足利市の総人口は、152,562人でそのうち農業人口は15,667人であり、足利市の総人口の10.2%が農業人口である。

7. 足利地方の耕地面積はどのくらいか。

耕地面積

(昭和40年)

種目	区分	面積	構成割合
田		2,255.4 ha	67.1%
畑		854.3 ha	25.4%
樹	園	246.6 ha	7.4%
その他		3.8 ha	0.1%
計		3,360.1 ha	100.0%

8. 農業は、どんなところに力をいれているか。

米麦を作ることを重点としているが、最近では、そ菜・果樹・畜産をとり入れる農家がふえてきている。農作業には機械を使って能率をあげて生活の改善を行ない、豊かな楽しい農業をめざして努力している。

9. 足利地方の酪農は、どのくらい行なわれているか。

(昭和43年)

酪農を行なっているものは46戸で427頭の乳牛がいる。足利市の農家をめざし努力している。

10. 足利市の耕地整理はどのくらい行なわれているか。

足利市で耕地整理されているものは大部分が水田で、857 haであり、田のうち、38%である。

11. 足利地方の農家は、専業と兼業ではどちらが多いか。

足利市の農家

(昭和40年)

種別	区分	戸数	構成割合
専業	業	866戸	11.9%
兼業	業	6,406戸	88.1%
計		7,272戸	100.0%

12. 足利地区の農業の生産高と酪農の関係はどうなっているか。

足利市の農産物のとれ高は3,620,973千円で、そのうち酪農は113,400千円であり、酪農は3.1%を占めている。(昭和42年)

13. 足利地区の農産物は、どこに出荷しているか。

主な荷先

(昭和42年)

品種	出荷先
米	米は政府に売渡しているが、指示により足利市内、福井県、新潟県に出庫している
麦	麦も政府に売渡しているが、指示により足利市内、群馬県、愛知県に出庫している
いちごぶどう	東京都内に出荷
肉豚・けい卵	ほとんど足利市内で消費
さやえんどう	栃木市内にほとんど出荷
野菜・トマト	足利市・佐野市でほとんど消費

14. 農家の一年間の所得はどのくらいか。農家の所得はどのくらいか。

農家の所得

(昭和41年)

区分	一農家の所得	内訳		摘要
		農業所得	農外所得	
栃木県	875.9千円	476.3千円	399.3千円	農閑期の出かせぎなどが(農外所得)
足利市	828.4	239.4	589.0	" "

15. 栃木県の農産物のとれ高と足利市の割合はどうか。

昭和42年の県内の生産高はいまだ集計されていないので、昭和41年の状況をもとにしてみると、

年度	金額	一農家当り使用高
昭和41年	105,033千円	14.4千円
昭和42年	106,239	14.6

16. 足利市の農家は、金額にしてどのくらいの肥料を使っているか。

足利地方の農家が使っている肥料

年 度	金 額	一農家当り使用高
昭和 41 年	105,033 千円	14.4 千円
昭和 42 年	106,239	14.6

17. まずい米とおいしい米のとれ高はどのくらいか。

陸稲はねばりが少ないので炊いて食べるには水稻よりも味が劣るので一般的にまずい米と、おいしい米とに区別すると水稻と陸稲にわけられます。

足利市でとれた水稻…………… 13.105 トン

足利市でとれた陸稲…………… 300 トン (昭和41年)

18. 農地改革の進みぐあいはどうなっているか。

自作農創設特別措置法という法律が昭和21年11月22日にできたので、足利市では現在までに、2,138 ha が自作地になり、足利市の耕地面積の63.6%にあたる。

19. 足利市内の野菜の主産地はどこか。

足利市内で集団的に栽培されている野菜には次のようなものがある。

品 名	お も な 産 地
き り	上渋垂 高松 福居
と ま と	下野田 荒萩
い ち ご	島田 上渋垂 矢場川 大沼田 大久保 奥戸
さや えん ど り	大沼田 北郷田島

20. 農産物のうちいちばん収入の多いものはなにか。

農産物の収入をくらべる場合、同量目を基準にしたり、同一面積からの収入を比較するなどの方法があるが、一日当たりの賃金を基準とすれば次のとおりである。

種 類	一日当り家族労働報酬	種 類	一日当り家族労働報酬
水 稻	2,872 円	ま ゆ	1,400 円
肥 育 牛	2,718	乳 牛	1,320
け い 卵	2,096	肥 育 豚	1,248
陸 稻	1,424	小 麦	1,104

21. 足利地方で作られている米は何種類くらいあるか。

くさぶえ 日本晴 農林25号など、およそ100種類になる。

22. 足利市の農家では、一日平均何時間くらい労働しているか。

足利市の農家は一日あたり18.15日で、1,567時間農業に従事している。従って一日平均約8時間はたらいている。

23. 農家の人手不足をなくするためにはどうしたらよいか。

栽培方法を改良して省力化したり作業能率をあげるために機械化すると共に共同化する。なお、耕地整理をして耕地の交かんなどを行なうといっそう人手不足の解消に役だつものである。

24. 野菜と米では、どちらが収入が多いか。

1620では家族労働報酬を基準として収入を示したが、同一面積から得る収入は次のとおりである。
(昭和41年 栃木県平均)

種 類	10アール当り収量	金 額
水 稻 う る ち	376 Kg	38,728円
い ち ご	1,376	397,664
と ま と	5,144	277,776
き ゅ う り	2,568	184,896
に ん じ ん	1,297	49,286
き ゃ べ つ	2,323	51,106
ほ り れ ん 草	1,118	46,956

25. 足利ではビニールハウスがどのくらい作られているか。

足利市でビニールハウスにより栽培されているものは次の通り。
(昭和43年)

種 類	面 積	種 類	面 積
と ま と	1,200 a	な す	500 a
き ゅ う り	1,100	花	80
ぶ ど う	50		
い ち ご	2,400	合 計	5,330 a

26. 団地が作られて農地が少なくなっていくが、これらの農家はどうなるか。

この問題は次の質問にも関連しているが、足利市の団地になった面積は次のとおりである。

団 地 名	農地が団地になった面積
トリコット工業団地	24.6 ha
大月工業団地	22.4
御厨工業団地	47.3
助戸工業団地	20.3
毛野住宅団地	25.2
計	139.2 ha

上記のように団地が作られており、このほか工場や住宅の敷地に替わる耕地もあり、昭和37年から昭和40年までの調査によると平均67haが毎年耕地が少くなっている。従って農業の経営も狭い面積で比較的収入のあがるそ菜のハウス栽培、花き栽培等を行なう農家と兼業農家がふえるものと思われる。

27. これらの農家はどうか。

農家で農業を行なうものが少ないので、生産は機械化、共同化、省力化が進み畜産物、果樹などをとり入れるもの、ハウス栽培等施設園芸を行なうものも普及するとともに農家の生活様式も都会と同じようになる。一方では農外収入に依存する兼業農家も次第にふえる傾向にあり、農家の階層分化はこれからさらに拡大するものと思われる。

28. 農業人口が工業人口に移っているのは、どんな理由からですか。

日本の経済成長は商工業をはじめとして、すべての産業の規模が大きくなり、多くの労働力が必要になってきた。それと同時に農家の生活、文化、教育の面も年々向上しておりさらに農業の機械化が進むにつれて、農家もこれまで以上の現金が必要になってきた。農業収入については、せまい耕地で全家族が働いてもその割に収入がふえるものでない。全国的にみて農家の一人当りの所得は、製造業に従事する労働者の賃金の78.0%で格差が大きいので、農家の若い働き手は工業に従事するものが多くなっている。
(昭和40年)

29. 土地が少ないのにどうして米がよけいとれるのか。

水稻の10アール当り収穫量は次のとおりである。(栃木県)

昭和39年	350 Kg
昭和40年	340 Kg
昭和41年	376 Kg

上記の収穫量は、栃木県のものであるが昭和42年に政府が全国の農家から買い上げた米は983万トンであるのに対して、米の消費は700万トンであった。食生活の変化と米の増産、農業政策などによって、このような現象となったが以前よりも、収穫がふえている理由として次のような

ものがあげられる。

- (1) 米の生産意欲がおり盛である。
- (2) よい品種が普及された。
- (3) 病虫害の防除がよく行なわれた。
- (4) 肥料の施し方が改善された。
- (5) 適切な水の管理技術が向上した。

以 上

評

共同質問学習—学習に必要な事がらを、学校の講堂に講師(?)をお呼びし、何でも児童に質問させて獲得させる。今までも低学年社会科授業の中には類似した学習形態が散見されたが、毛野小の場合には、それらをさらに組織的・効果的なものに改善したものとも考えられるので、なかなかおもしろい試みとも言えよう。またこの記録では質問事項とその結果が述べられているが、特に足利地区農業についてさん新な資料が豊富に紹介されているのも注目される。ただ紙数の関係でやむを得なかったことと思うが、この共同質問学習の意味と役割、あるいはその効果と限界などが明らかにされていたならば、さらに多くの示唆を与えてくれたのではないかと思われる。